

# 行政視察報告書

---

令和6年4月25日(木)～26日(金)

産業建設委員会

## 視察日時・視察先

---

■日時 令和6年4月25日(木) 12:00~14:00

■視察先 「道の駅 西いなば気楽里(きらり)」 鳥取県鳥取市鹿野町岡木280-3

■日時 令和6年4月26日(金) 13:30~15:00

■視察先 「かながわ SAKAGURA」 岡山県岡山市北区金川690番地1

■派遣委員・同行者・事務局 (合計8名)

委員 川上幾雄・田畑敬二・村木勝也・大谷 学

小川稔宏・佐々木豊治・牛尾 昭

事務局職員 庶務係長 大下貴子

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

■日時 令和6年4月25日（木）12:00～14:00

■場所 道の駅 西いなば気楽里（きらり）鳥取県鳥取市鹿野町岡木280-3

■視察の目的（選定理由）

当委員会における所管事務調査（取組課題）である「道の駅の指定管理の在り方について」の参考とするため、鳥取市が設置している県内では17番目の道の駅について調査する。

令和元年5月に鳥取西道路が開通することにあわせて道の駅は開業し、5年が経過している。この間、集客人数は370万人、年平均70万～75万の利用者があることから参考になると考えたため。





# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■視察先の概要

- 鳥取市は、鳥取県の東北部に位置し人口は約18万7千人  
岡山・姫路からは100km、神戸・大阪・京都からは150kmの圏域に位置している。
- 道の駅は、気高町・青谷町・鹿野町が他の東部や南部の町村と共に平成16年に鳥取市に編入され、鳥取市西地域に位置している。



# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■視察先の概要 / 施設規模

- ・敷地面積 19,062㎡（国際規格のサッカーコート約2.6面分）
- ・浜村鹿野温泉IC出入り口の主要地方道郡家鹿野気高線沿い。
- ・小型車119台、大型車22台、二輪車15台の駐車場。
- ・道路や地域の情報コーナーや休憩スペースには、授乳室や畳コーナー、観光案内所、レストラン、物産コーナー、ファストフード、飲食コーナー、体験加工・地域交流室、農畜産・海産加工室、コンビニ、足湯、イベント・休憩スペースと一通りの施設を有している。

## [防災拠点機能]

備蓄倉庫や太陽光発電、木質バイオマスボイラーなどエネルギーの自立供給も目指している。

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■視察先の概要 / 経緯

- 旧3町の合併から3年後の平成19年に商工会も合併したがワンチームにならない状態であった。**転機となったのは山陰道鳥取西道路の建設**とのことである。
- 浜村鹿野温泉IC近くに道の駅を造り3町の経済推進だけに留まらず移住定住に向けた**地域づくり拠点**、さらに**産業振興拠点**、**防災拠点**、**観光振興拠点**、道の駅連携という地域におけるまちづくりを目標とする総合的拠点機能を目指した道の駅として、鳥取市が約18億円を投じて設置。



## ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

### ■視察の内容 <取組、事業内容等>

- 道の駅の指定管理団体である「**鳥取いなばまちづくり株式会社**」は、まちなか再生のための事業を推進するまちづくりの牽引役としての行政や民間企業だけでは実施が難しい事業にも取り組み、公共性と企業性を併せ持つ会社とし平成29年4月に設立。
- 「**まちづくり株式会社**」は、特産品販売から地域振興事業等まで様々で幅広く継続的に取り組んでいく仕組みを創り、まちが発展向上するための必要な組織と位置づけ、営利のみを直接的に目標とする組織ではなく、行政と民間による協働体制を基本としている。
- 「まちづくり株式会社」は、三役は100万、理事は50万、1株5万で全て民間から出資を募り資本金3,150万でスタートした。

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■視察の内容 ‹取組、事業内容等›

- 設立当初は畑違いの経営で的確な人員配置ができていなかったが、従業員数を半減する合理化や適正な人員配置、さらなる経営効率の改善等を行い、借入金も1,000万程度に減少し、社員にもボーナスを出せる状況まで経営が安定してきた。
- 直営であるコンビニ部門は赤字だが、防犯上や施設管理上のこともあり現状としてはやむを得ないと認識している。
- 陳列棚を潤すことを優先し週三回集荷に町内を回り、農産物等の出店数は302件。  
海産物については魚をさばける人材を置いている。
- 「まちづくり株式会社」として約3,000万の初期投資をしてPOSシステムを導入し、店舗運営を可視化して経営改善に当たっている。  
利用者のレジ通過率は55%で、一人当たりの利用単価は1,040円～1,050円であった。



# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■ 質疑の内容

**(質問) 県内17番目の道の駅となることへの戸惑いなどはなかったか**

(回答) ゴールを見据えていたので戸惑いはなかった。

**(質問) 産直市の総参加者及び参加募集方法について**

(回答) 最初は115人～113人、現在は312人。呼びかけはチラシのみ。

**(質問) 地域産物の品質確保方法、季節対応方法について**

(回答) 大規模農家はなく、東部の卸売業者3者に声をかけ、地元産品を優先し問屋を通さない。1週間に3回集荷を行う。旬のものを扱うようにする。

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■ 質疑の内容

**(質問) 場内の物販等の配置方法はどのように検討されたか**

(回答) ディスプレイの専門家に来てもらい指導を受けた。

**(質問) 運営や収支の内容などについて**

(回答) 開業3年で大きな借金をしたが、今年か来年には完済しスタッフにも還元したい。  
3町のリーディングカンパニーという位置づけだけには変えないでいる。

**(質問) コロナ禍等による苦しい経営状況下経営努力の柱や対策で留意された点について**

(回答) 素人なので、皆で意見を交わしながら模索し、経営効率の話を中心とし、営業の時間短縮などを行った。

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

## ■ 質疑の内容

**(質問) 海産物を扱う際の、他店とのすみ分けや整理はあるのか**

(回答) 市役所に依頼して水産加工施設の設置を行い、1人は魚を捌ける人物を置き、手の届くサービスをしている。

**(質問) 加工食品においてHACCP施行に伴う影響などについて**

(回答) 小規模事業者や地場産品にとってHACCPは切実な問題。保健所の講習を受けてもらうなど懇切丁寧に運営会社で手をかけている。

**(質問) イベントの開催状況や集客の手法について**

(回答) 出荷者協議会(役員会)を開催しSNS、チラシ、ホームページなどで発信している。

**(質問) イベント等での協力団体等、住民連携の状況について**

(回答) 協力者には謝金を支払うかボランティアをお願いしている。3町の支所長に出てもらう会議を毎月行っている。



# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

---

## ■ 質疑の内容

**(質問) コンビニエンスストアが出店した経緯について**

(回答) 防犯上のことで出店を依頼した。セブンもローソンも面積上の問題で断られたが、ファミリーマートが出店してくれた。しかし赤字のトップはコンビニ。(5年間の累積赤字2,000万円) 警察の巡回も依頼。コンビニからの通報などもある。

**(質問) 足湯や和紙体験などのアイデアはどこから、どの段階で出てきたものか**

(回答) 浜村温泉の湯量は豊富なので、建設当初から要望したが、源泉かけ流しではなかったことが残念である。

**(質問) 鮮魚や農産物出店者数について**

(回答) 312人

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

## ■委員会としての所感(1/2)

施設設立の初期から地域密着・公民連携を活かした運営がなされ、加えて、コロナ禍での困難な運営（赤字・借金経営・人員カット）を乗り越えてこられた現状説明に、「道の駅」を地域のまちづくり・観光の拠点として据え、地域総力で支えてこられたことが伺えた。

この「道の駅」の運営で特記すべきは、運営を「まちづくり株式会社」が行っていることが挙げられ、社名には、地域一丸となって運営しようとする姿勢が現され、実際もその通りであると説明から受け止めた。また、道の駅に立ち寄る楽しみである新鮮な産品や「ここでしか買えない物」を徹底して前面に出し、オリジナルな物も生み出しているところも挙げられる。加えて、運営方針に「地域に還元・町全体の収益を高める」を掲げられ、実際に収益の一部を地域振興に還元されている。そして、この組織をとりまとめ、目標に向かって引っ張ってこられた方々の功績は大きい。

# ① 道の駅 西いなば気楽里 ～道の駅の経営及び誘客等について～

## ■委員会としての所感(2/2)

今回の視察から、「ゆうひパーク浜田」の運営に求めるものとして挙げられる事柄は、「まちづくりや観光の拠点」「地域産業との連携」「他所の道の駅との差別化」

「民間活力による経営」「利益を生み出し地域に還元」  
などであるが、最も重要であるのは「どのような組織が運営するのか、運営組織の力量をどのように判断するか」であろうと思われる。今後のプロポーザルに向けては、以上の観点から臨んでいただきたい。





## ②かながわSAKAGURA

～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

■日時 令和 6年 4月 26日 (金) 13:30～15:00

■場所 かながわSAKAGURA 岡山県岡山市北区御津金川690番地 1

■視察の目的 (選定理由)

三桜酒造跡地の活用において酒蔵機能保存の可能性等について研究のために、江戸時代に創業した旧家武藤酒造の木造建築の二階建て酒蔵の保存を図り、巨松の梁、良質の杉柱、塗壁、樽材を利用し建物を復元・改修し多目的施設として整備された「かながわSAKAGURA」を選定し調査を行った。



## ② かながわSAKAGURA ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

### ■ 視察先の概要

➤ 施設の名称	かながわSAKAGURA	➤ 施設規模	敷地面積 767.06㎡
➤ 施設種別	産業振興施設 (産業情報提供施設)		構造/延床面積 木造/433.4㎡
➤ 開設年月	平成6年3月		建設費 旧御津町で取得
			施設内容 2F展示ホール：83.65㎡
			2F和室：28.51㎡
			1Fギャラリー：60.84㎡
			1Fレストラン：101.85㎡ (目的外使用)
			1F売店：8.61㎡ (目的外使用)

## ②かながわSAKAGURA ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

### ■視察先の概要

- 開館時間 9：00－17：00
- 休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合、翌平日）、年末年始
- 売店営業時間 10：30－16：00
- レストラン営業時間 11：00－17：00
- アクセス JR津山線金川駅徒歩約7分  
駐車場：乗用車33台  
岡山空港から車で約20分、  
山陽自動車道岡山ICから15分





## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

#### ■視察の内容（視察先の取組、事業内容等）

##### ➤設置目標と取組状況

来訪者に対し

#### ①御津の歴史 + ②観光情報等を提供 = 地域活性化を図る。

- ・観光と歴史の融合を市も推し、埋もれた観光資源の掘り起こしを行っている。
- ・かつては陣屋町、金川城があり栄えた場所で、山城が沢山ある地域でもあることから歴史パネルを作成し展示し紹介している。
- ・「お城ブーム」の中、平成30年から令和4年、岡山城の集中改修の波及効果や墳丘上まで上がることができる全国最大の前方後円墳である造山（つくりやま）古墳ビジターセンターもあり、**観光振興に力を入れている。**



## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

#### ■ 質疑の内容

**(質問) 土地建物の寄贈に当たり武藤酒造側から利活用の条件や要望は示されたか**

(回答) 土地・建物寄贈者の武藤氏の希望を尊重し、コンサートや小規模な展覧会などと、食事をしながら会議ができる施設としている。

**(質問) 酒蔵を活用し観光や憩いの場に整備するに至った経緯などについて**

(回答) 武藤邸は昭和30年代まで「中国錦」というブランド名で日本酒の醸造・販売を経営。その後無人となり、建物の維持修繕の困難さや、国道53号線と県道御津・高梁線の交差点改良工事により保存が問題になっていたところ、所有者から旧町へ寄贈の申し入れがあり、酒蔵を移築再生し、町内の埋もれた歴史的建物を有効活用し、だれでも気軽に利用できる施設にして町内の活性化に役立たせようと改修を行った。  
なお、利用者の満足度を高めるため、テナント(飲食部分)を設置した。

## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

#### ■質疑の内容

**(質問) 整備方針決定に至った要因、推進主体及び住民の合意形成のポイントについて**

(回答) 当時の町の観光スポット的な施設や各種地域活動を展開する場が必要となっていたこと、また地域に団体客を受け入れられるような飲食施設が当時なかったことなど背景があったと聞いている。

**(質問) 地域計画との整合性について(都市計画、公共施設整備計画など)**

(回答) 旧御津町時代に建てられたものであり、都市計画がなかったと聞いている。

**(質問) 地域における酒造業の歴史の検証はどの部所がどのようになされたのか  
(専門家やコンサルタント会社への委託等があったのか)**

(回答) 酒造場を用いた観光交流拠点として整備していることから、酒造業の歴史の検証は実施していない。



## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

#### ■質疑の内容

**(質問) 基本計画作成者の選考方法について**

(回答) 基本計画は策定していなかったが、土地、建物の寄贈者が設計し、寄贈者の意思を盛り込んだと聞いている。

**(質問) 今後の運営方式や現在の収支について**

(回答) 現在は指定管理方式を採用している。指定管理料5,040千円

**(質問) 議会側が関わったのはどの段階からか**

(回答) 施設の運営方法や運営方針については行政と議会で議論を重ねていたと聞いている。

**(質問) 初期投資額及び昨年度の改修について**

(回答) 当時の資料によると、改修工事費は約1億5千万円。土地建物は、武藤倫男氏から旧御津町へ寄贈された。令和5年度の改修内容は、屋根及び外壁の補修、カーペット張替、1階ギャラリーの監視カメラ設置、トイレの洋式化、照明のLED化  
R4年度:設計261万円、R5年度(予算):工事費8,560万円

## ②かながわSAKAGURA ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

### ■ 質疑の内容

(質問) **利用状況について**

(回答) 施設利用者数の経過は以下のとおり。

	令和年度	令和年度	

なお、指定管理者が目的外自主事業で運営している  
レストランは、月1,500人ペースである。

(質問) **施設の活用として、メインは観光か、市民の利用か、又は酒蔵の保存となるのか**

(回答) 条例の設置目的に「来訪者に対し御津の歴史、観光情報等を提供するとともに、歴史的施設を観光交流拠点とし、地域活性化を図る」と制定しており、**観光交流拠点として機能させ、地域活性化を図ることを目的としている。**



## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

#### ■委員会としての所感

平成初期、当該施設が道路改良の支障となったことで、旧所有者から旧町が寄贈を受け、地域活性化を目的として酒蔵の建材を活用した集会施設、食事のできる場、観光施設として移築改善されたうえで、地元レストランが管理者として運営されていた。

昨年から本年にかけて、市費約8,500万円を投じて内外装の大規模なリニューアルがなされ現在に至っている。

リニューアルにより、外観は酒蔵当時の様子が薄れたように感じるが、屋内の構造、特に天井部分に見受けられる屋根組（梁材）は伝統的構築物の趣を醸し出し、観光施設としての存在感があった。そしてレストランは、酒蔵の趣の中での食事の場として懐古的ニーズに見合った施設として多くの顧客を生み出し、収益の大半を占める重要な部分となっている。また、周辺の山城を活かしたマップ作製や案内は、新たな観光の目玉になるような予感がした。



## ②かながわSAKAGURA

### ～酒蔵跡活用に至った経緯や現在の利用状況について～

---

#### ■委員会としての所感

今回の視察より「三桜酒造跡地や酒蔵の活用・検討」に求めるものとして、

- 「ここに酒蔵が存在しており地域経済の一役をなしていたという歴史」
- 「酒蔵という構築物が持つ空間や趣を活かす」
- 「地域のニーズを活かす」

などであろうと思われ、今後の検討において  
生かされることを期待する。

